



# 今週の T2 経済レポート

2020年11月27日

## ■■■ 市場ウオッチ ■■■

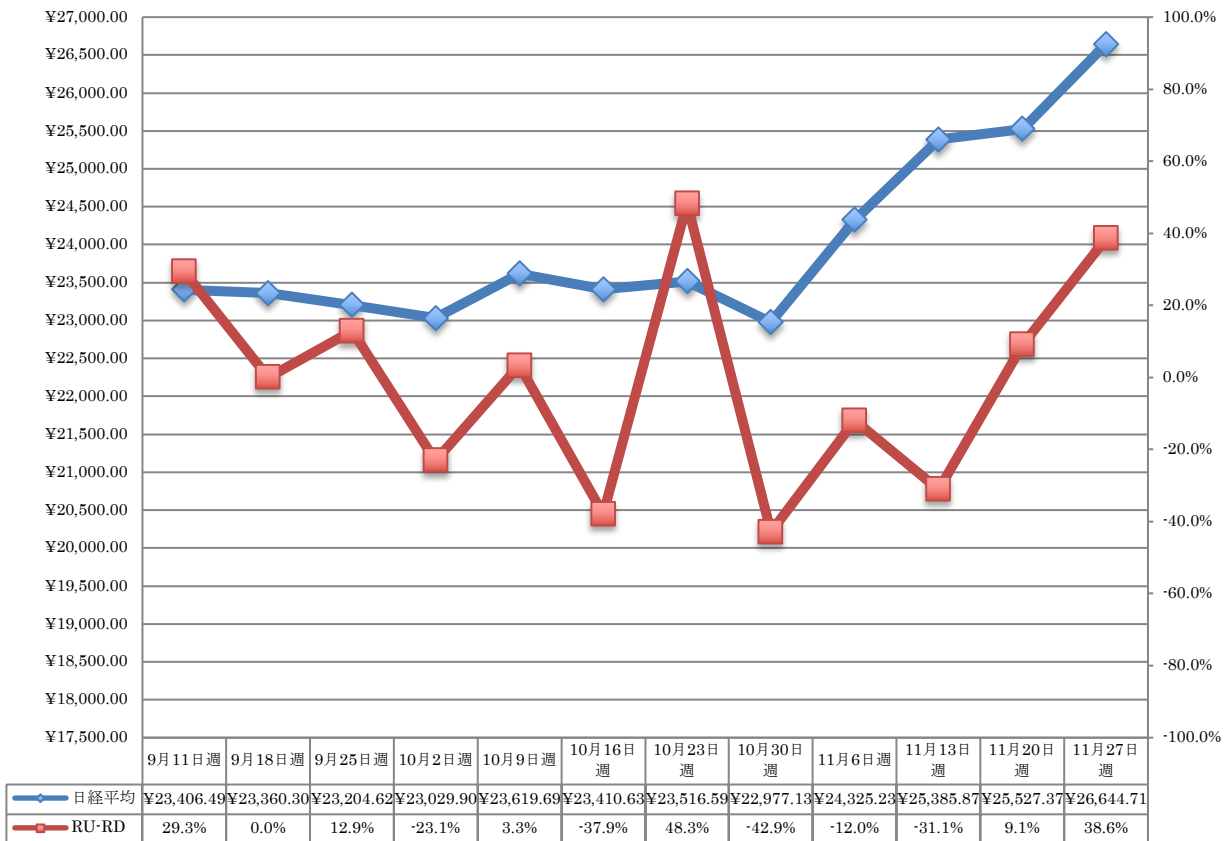
### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場継続が期待できそうです。今週(11/23~11/27)の相場を占う『RU-RD 指標』の11月13日週は+38.6%と2週連続でプラス圏に浮上していることから堅調相場の継続が期待できるかたちです。ただ、来週(11/30~12/4)の相場を占う11月20日週は-6.8%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことから急落調整の懸念が出てきています。今週末12月4日に毎月恒例イベントの米雇用統計、さらに来週末11日にメジャーSQを控えていることから投機筋の外国人が売り・買いどちらかの仕掛けをしやすいスケジュールとなっていることから株価操作に要注意な時間帯に入りそうです。その後は外国人はクリスマスモードに入ることから今来週が今年最後の仕掛けとなる可能性があります。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%と、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破した後、足踏みしています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』では時間限定となっており、今回はどのような目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、24日に10月全国百貨店売上高、27日に11月東京都区部消費者物価指数、一方、海外は、23日に米11月製造業・サービス部門購買担当者景気指数(PMI速報値)、24日に米9月S&PコアロジックCS住宅価格指数、米11月CB消費者信頼感指数、25日に米7-9月期GDP改定値、米10月新築住宅販売件数の発表が予定されています。11月25日発表の米7-9月期国内総生産(GDP)改定値は、コロナまん延に伴う制限措置の影響で急激に持ち直した速報値から下方修正された場合、持続的な景気回復への期待は後退し、株安・ドル安の要因となりそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は23日は勤労感謝の日で東京市場

休場、海外は、25日に11月4日、5日のFOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨公表、26日は感謝祭で米国市場休場、27日に米ブラックフライデーが予定されています。」とコメントしました。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



11月6日週	11月13日週	11月20日週	11月27日週
¥24,325.23	¥25,385.87	¥25,527.37	¥26,644.71
-12.0%	-31.1%	9.1%	38.6%

先週の日経平均は、高値 26706 円(11月25日)・安値 25901 円(11月24日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、良好な経済指標と新型コロナウイルスワクチン接種のスケジュール、次期財務長官にイエレン前FRB議長の指名が報じられたことなど好感してNYダウはが史上初の3万ドルの大台乗せ、一方、東京都が飲食店などに対して営業時短の要請決定など新型コロナ感染拡大に伴う自粛要請の広がりが警戒され上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週となったものの、週間ベースで+1117円高と4週連続の上昇となり、4週間の上げ幅は+3667円の大台高で終了しています(先週予告していた上値メド27092円~27633円(+2%かい離)//下値メド25819円~25302円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替え

で、11月25日に26500円大台替えて仕切り直しが入りました。27000円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、26000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、11月15日(日曜日のため16日)までに26000円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。27000円大台替えて仕切り直し、逆に、24000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えての法則では、8月に23000円大台替えて仕切り直しが入り、11月に24000円大台替えてカウントダウンの上昇局面入りに3ヶ月、同月25000円大台替えてカウントダウン継続、更に同月26000円大台替えてカウントダウン継続に0ヶ月、従って、11月中に27000円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、25000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期↑となり、再び短期が強含みとなり目先上昇が加速してますが、中期は方向感なく、また長期も時間限定の強含みで、目先は上昇の最終段階に入り始めています。

日経平均を左右するNYダウは、高値30116ドル(11月24日)・安値29332ドル(11月23日)と推移、3週間振りに前半安・後半高の強いかたち。先週は、週初、下値目標値からスタートしましたが、米政府機関がバイデン前副大統領に政権移行作業の開始を認めたことや新型コロナウイルス感染症の予防効果のあるワクチン開発の進展、米国の11月製造業PMI速報値が予想外に上昇などから上値目標値には届きませんでした。史上初の3万ドルの大台乗せに成功、週間ベースで+647ドルの大幅高で、終値ベースでも史上最高値で終了しています(先週予告していた上値メド31357ドル~31984ドル(+2%かい離)//下値メド29809ドル~29212ドル(-2%かい離))。「大台替えての法則」では、短期の大台替えて、11月24日に30000ドル大台替えて仕切り直しが入りました。30500ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、29500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、11月14日(土曜日のため猶予で16日)までに30000ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えて仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、11月に28000ドル大台替えて仕切り直しが入り、同月29000ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面入りに0ヶ月、さらに同月30000ドル大台替えてカウントダウン継続に0ヶ月、従って、11月中に31000ドル大台替えてカウントダウン継続、逆に、29000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期↑、となり、再び短期が強含みとなり目先上昇加速してますが、中期は方向感がなく、長期も時間限定の強含みで、目先は上昇の最終段階に入り始めています。

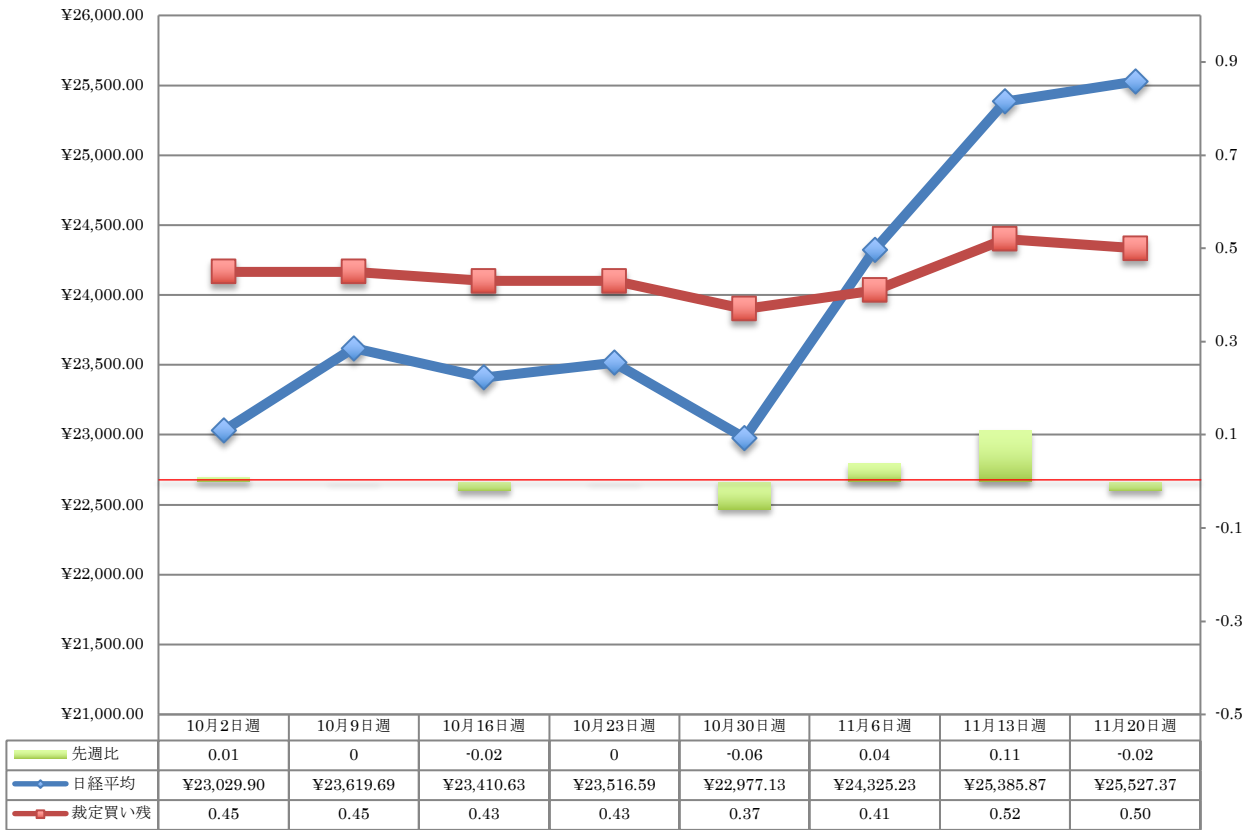
一方、為替は、ドル・円が104.75円~103.89円(先週予告していた上値メド105.63円~106.68円(+1%かい離)//下値メド103.30円~102.26円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週でしたが実質3週間振りに円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1963~1.1832(先週予告していた上値メド1.2013~1.2133(+1%かい離)//下値メド1.1779~1.1661(-1%かい離))と推移し、2週連続で上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週となりましたが、実質4週間

振りのドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、124.56 円～123.62 円(先週予告していた上値メド 125.38 円～126.63 円(+1%かい離)//下値メド 123.36 円～122.12 円(-1%かい離))と推移し、2 週連続で上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週となりましたが、実質 3 週間振りの円高・ユーロ安。前の週のユーロ>ドル>円から円>ドル>ユーロに変化しました。ユーロ圏の 11 月 PMI 速報値が前月から低下したことで新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞懸念、欧州中央銀行(ECB)が 12 月開催の理事会で一段の金融緩和に動く可能性が高いこともユーロの反発を抑えたかたちです。

### <裁定買い残・裁定売り残>

3 週間振りに減少。3 月 23 日週に今年 1 月以来となる 7000 億円台に回復した後、その反動減が続いています。一方、「裁定売り残」は、前の週比-1283 億円の 1 兆 6306 億円と、2 週連続の大幅な減少。「裁定売り残」の減少は今回の日経平均が 29 年振りに 26000 円大台を回復した牽引役の一つとなっています。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

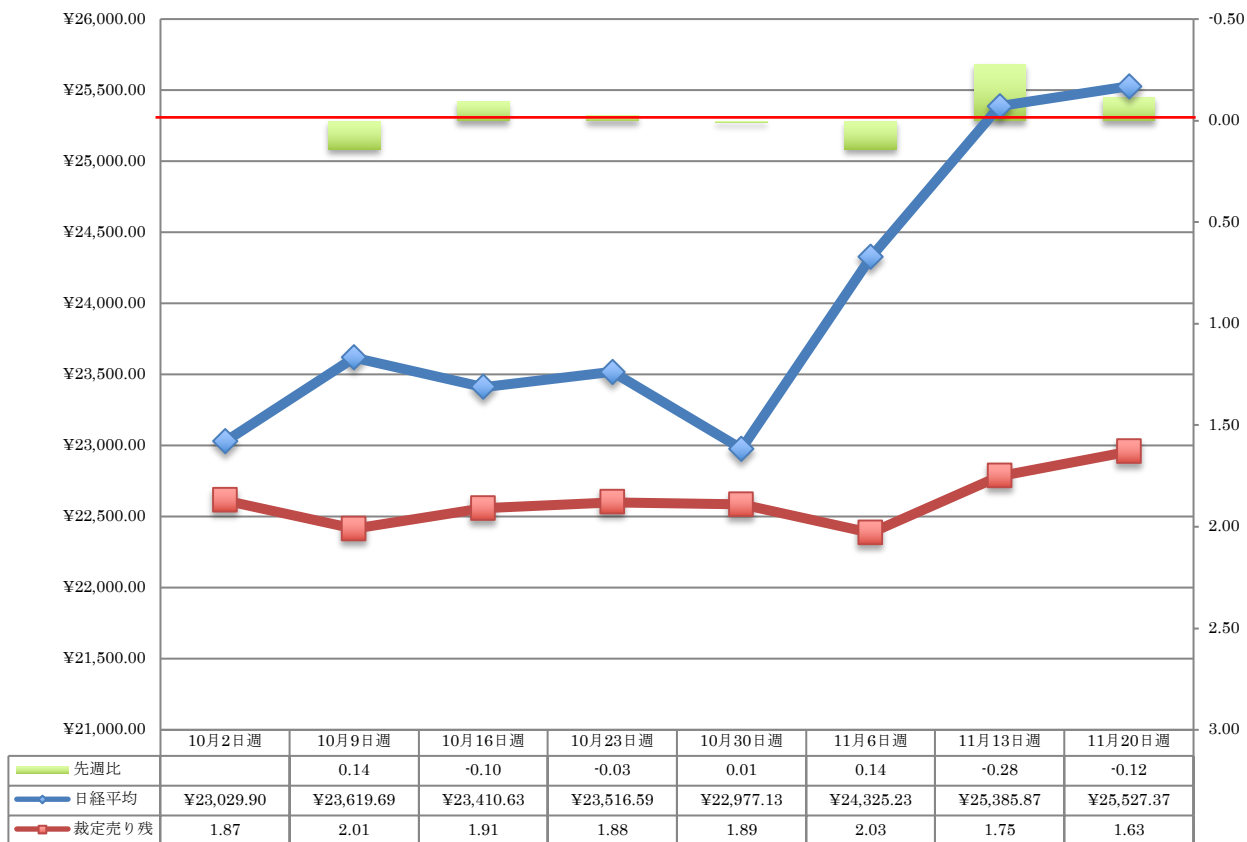
### 裁定買い残と先週比



10月30日週	11月6日週	11月13日週	11月20日週
¥22,977.13	¥24,325.23	¥25,385.87	¥25,527.37
0.37	0.41	0.52	0.50
-0.06	0.04	0.11	-0.02

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



10月30日週	11月6日週	11月13日週	11月20日週
¥22,977.13	¥24,325.23	¥25,385.87	¥25,527.37
1.89	2.03	1.75	1.63
0.01	0.14	-0.28	-0.12

単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は本来なら急落調整が懸念されます。今週(11/30~12/4)の相場を占う『RU-RD 指標』の11月20日週は-6.8%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことから本来なら急落調整が懸念されます。ただ、来週(12/7~12/11)の相場を占う11月27日週は+25.7%と再び、プラス圏に浮上したことから本来なら急反発が期待されるかたちです。つまり、今週、急落調整が起きれば、来週は急反発が期待されるかたちですが、今週末12月4日に毎月恒例イベントの米雇用統計、さらに来週末11日にメジャーSQを控えていることから投機筋の外国人が売り・買いどちらかに仕掛けをしやすいくスケジュールとなっていることから株価操作に要注意な時間帯に入りそうです。その後は外国人はクリスマスモードに入ることから今来週が今年最後の仕掛け時期であると同時に、混迷深める大統領選挙でも重要なスケジュールに入ることから特に注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%と、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破後、足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』では時間限定となってきており、今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、30日に10月鉱工業生産、10月商業動態統計、12月に入り1日に10月失業率・有効求人倍率、7-9月期法人企業統計、11月自動車販売台数、2日に11月マネタリーベース、11月消費動向調査、一方、海外は、30日に中国11月コンポジットPMI、中国11月製造業PMI・非製造業PMI、米10月中古住宅販売仮契約、12月1日に中国11月財新製造業PMI、米11月ISM製造業景況指数、2日に米11月ADP雇用統計、ユーロ圏10月失業率、3日に米11月ISM非製造業景況指数、4日に米11月雇用統計、米10月貿易収支などが予定されています。12月1日発表の米11月ISM製造業景況指数は57.6と、10月の59.3を下回る見通し。また、12月4日発表の11月雇用統計は、失業率6.8%、非農業部門雇用者数は前月比+50.0万人、平均時給は前年比+4.2%と予想され、非農業部門雇用者数の増加幅は10月実績を下回る可能性があり、金融緩和の思惑が広がりそう。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は12月5日に臨時国会会期末、海外は、30日に米サイバーマンデー、OPEC総会・OPECプラス閣僚会合(1日まで)、12月1日に米上院銀行委員会でパウエルFRB(連邦準備理事会)議長とムニューシン米財務長官が議会証言、4日にAPEC首脳会議(オンライン開催)が予定されています。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



11月20日週	11月27日週	12月4日週	12月11日週
¥25,527.37	¥26,644.71		
9.10%	38.60%	-6.80%	25.70%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 27101 円～27643 円 (+2%かい離)

下値メモ 26219 円～25694 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 30263 ドル～30868 ドル (+2%かい離)

下値メモ 29370 ドル～28782 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 105.30 円～106.35 円 (+1%かい離)

下値メモ 103.31 円～102.27 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1973～1.2092 (+1%かい離)

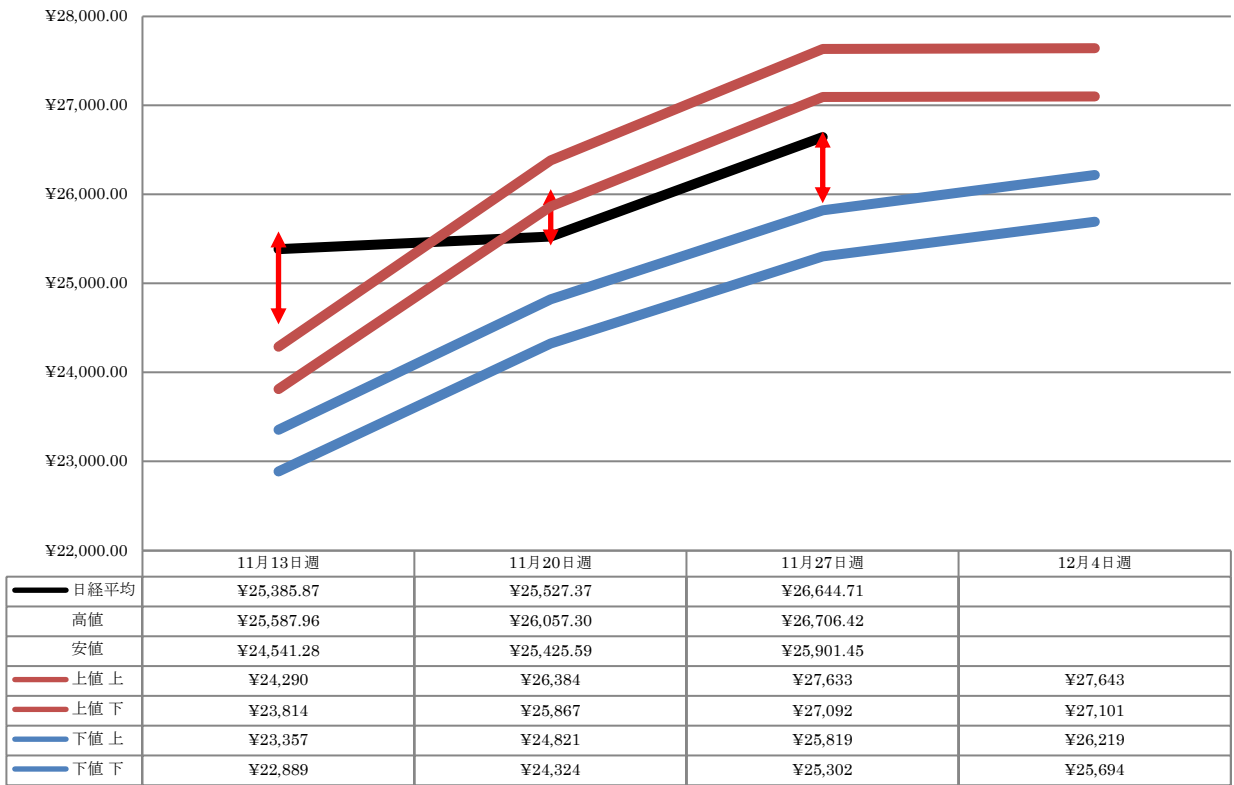
下値メモ 1.1844～1.1725 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 125.00 円～126.25 円 (+1%かい離)

下値メモ 122.93 円～121.70 円 (-1%かい離)

### 日経平均



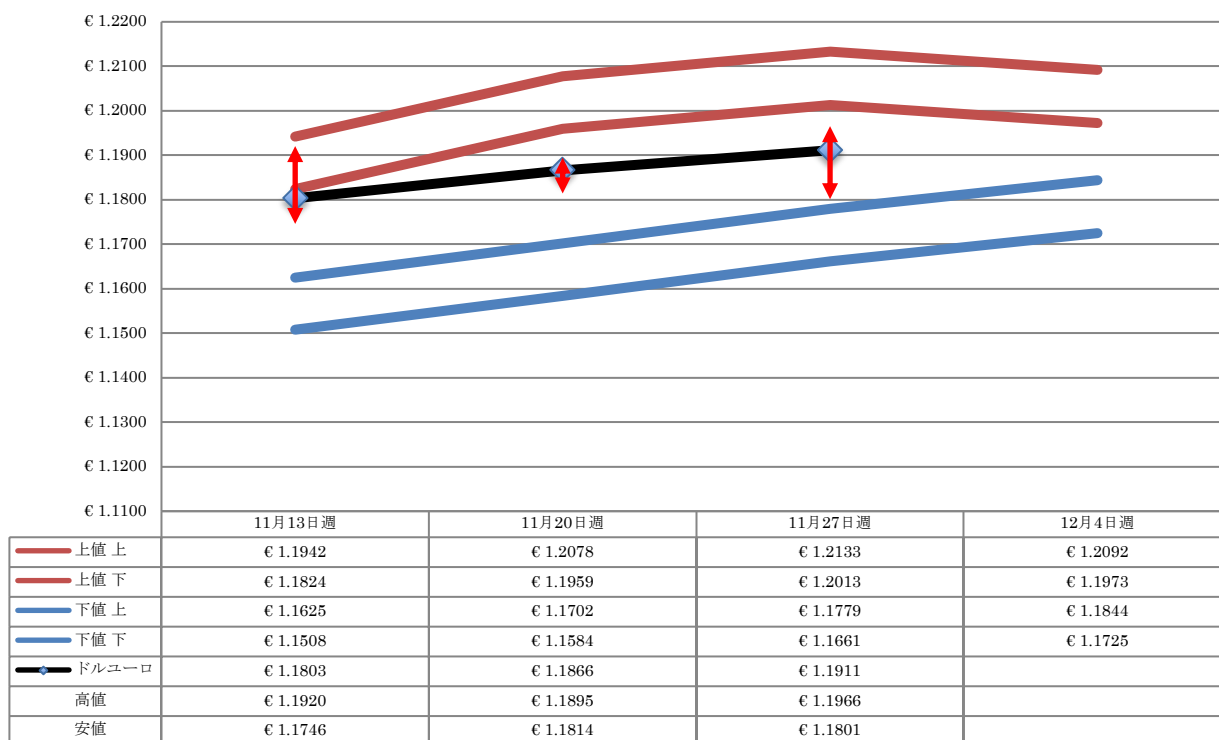
### NYダウ



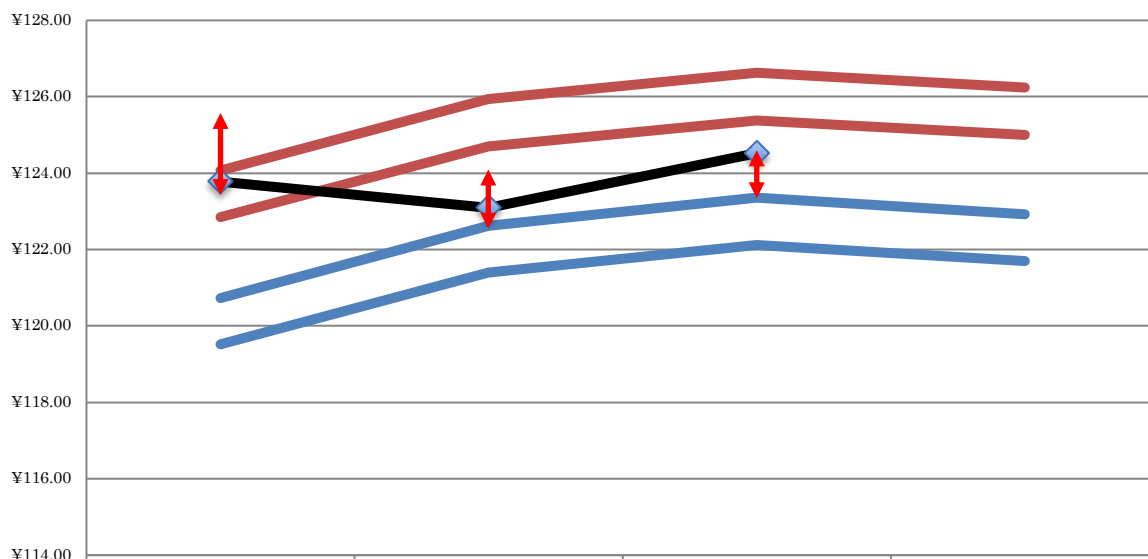
## ドル円



## ドルユーロ



## ユーロ円

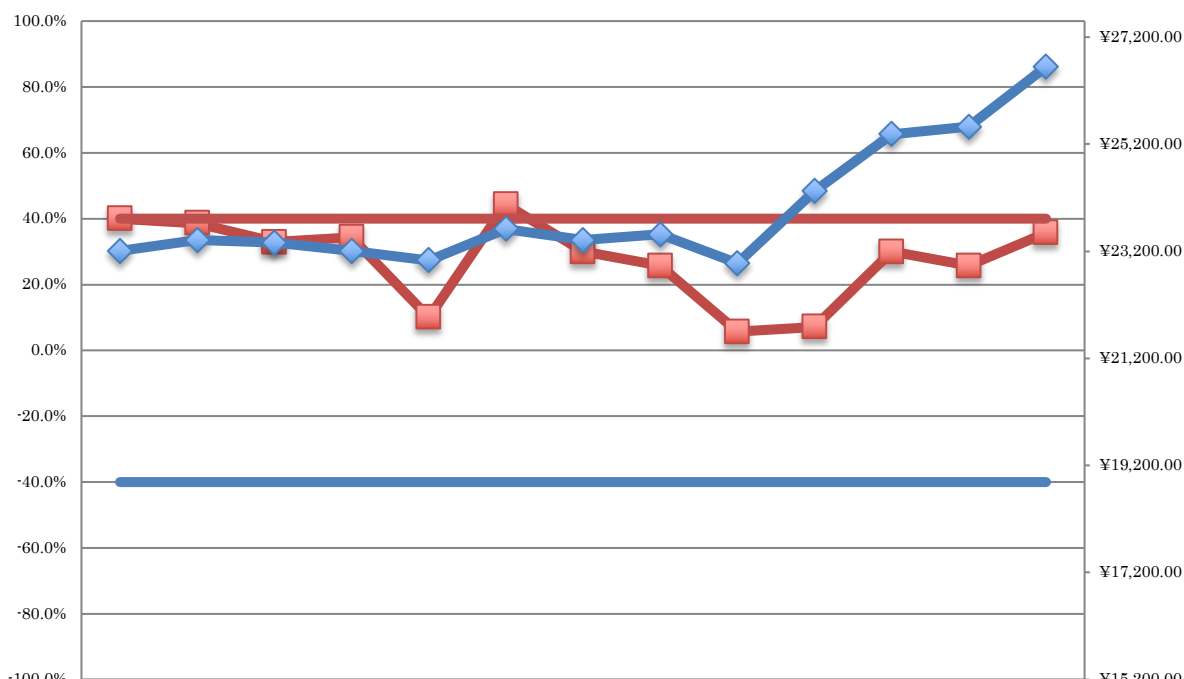


	11月13日週	11月20日週	11月27日週	12月4日週
上値上	¥124.07	¥125.94	¥126.63	¥126.25
上値下	¥122.85	¥124.70	¥125.38	¥125.00
下値上	¥120.73	¥122.63	¥123.36	¥122.93
下値下	¥119.52	¥121.40	¥122.12	¥121.70
ドルユーロ	¥123.79	¥123.09	¥124.52	
高値	¥125.58	¥124.09	¥124.60	
安値	¥123.42	¥122.55	¥123.35	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%と、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破後、足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』では時間限定となってきており、今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



	9月4日週	9月11日週	9月18日週	9月25日週	10月2日週	10月9日週	10月16日週	10月23日週	10月30日週	11月6日週	11月13日週	11月20日週	11月27日週
■ 銘柄比率	40.0%	38.6%	32.9%	34.3%	10.0%	44.3%	30.0%	25.7%	5.7%	7.1%	30.0%	25.7%	35.7%
■ 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
■ 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥23,205.4	¥23,406.4	¥23,360.3	¥23,204.6	¥23,029.9	¥23,619.6	¥23,410.6	¥23,516.5	¥22,977.1	¥24,325.2	¥25,385.8	¥25,527.3	¥26,644.7

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。